

令和8年4月

今後の学校給食のあり方に関する 調査特別委員会会議録

1. 日 時： 令和8年4月20日（月） 午後1時30分～午後3時33分
2. 場 所： 全員協議会室
3. 出席者： 【委 員】河村委員長、岡部副委員長、松崎(正)・井福・大塚・中村(真)・
松崎(百)・中村(慎)・河野委員
【欠席委員】山上委員
【委員外議員】なし
【執行部】なし
【傍聴者】市民3名
【事務局】一瀬議会事務局長、香椎議事課長、生座本議事課係長
4. 協議内容： 1. 小学校の全員制給食と中学校の選択制給食の課題の整理
2. その他
5. 概 要：
(開会 午後1時30分)

○委員長（河村康之） 皆さん、こんにちは。それでは、第6回の今後の学校給食のあり方に関する調査特別委員会を始めさせていただきます。

本日は山上委員から欠席の連絡が入っておりますので、お知らせをいたします。

また本日、傍聴の方が3名来てらっしゃいます。

前回の会議では、給食の課題整理の方法として、自由な意見交換を促すワールドカフェ方式を活用してはどうかという提案がありましたので、今回、その方式でさせていただきます。

委員の人数や整理すべき点を考慮し、私、委員長と岡部副委員長で協議をいたしまして、本日の意見交換の方式とさせていただきます。給食に関する皆さんの意見をいただきながら、課題の整理を進めていきたいと考えております。

それでは、本日の進行について、お手元に配付しております実施概要に沿って説明させていただきます。

今回の意見交換を行うに当たっての目的は、現在の学校給食の課題について、自由な意見を出していただくということですが、異なる視点の意見の交換を行いながら、前向きな課題の整理を進めることが狙いであります。本日は、方向性を定める場ではなく、あくまでも課題を整理するための場でありますので、その点の意識を進めていただきたいと思います。

進行に当たりましては、今、A班、B班に分かれておりますので、A班のほうが私中心で5名、B班のほうは岡部副委員長を中心に4名で行っていただきます。途中、班の入替えを行いますが、様々な委員の意見に触れながら進めていきたいと思っております。

それでは、本日の進行について、大まかな流れについて説明をさせていただきます。

まず、全体として、2ラウンドの構成として行います。第1ラウンド、第2ラウンドですね。

まず、第1ラウンドでは意見を出し合っていただきまして、今のグループで出していただく。ステ

ージ1では、課題整理シートの項目を参考にしながら、具体的に小学校の全員制給食、また中学校の選択制給食についてそれぞれのメリットやデメリット、また現状の課題について皆さんのご意見を聞いていきたいと思っております。各テーブル、正副委員長が進行役となりますので、まずは現状の課題について思うことを自由にお手元の付箋紙に書いていただいて、どんどん貼っていただきたいと思っております。テーマがありますから、その欄の横のほうに書いた付箋を貼っていただくということになります。

大体貼っていただきまして、その間、その意見についての話し合いを各テーブルで行っていただいて、それが出そろったら、今度は班を替えて、別のテーブルで同じような意見を話し合ってくださいということです。全員が全員の意見を見聞きできるということでございますので、お願いいたします。

同じテーマとして意見が出された前の班の情報を共有して、付け加える点などがあれば付箋を貼って追加をしていただきたいと思っております。

ここで気をつけていただきたいのが、ほかの方の意見は否定せずに、他の方の意見に付け足す形の意識を皆さん持っていただければと思っております。いろんな意見が出ますから、否定的な意見もあるかもしれませんが、それはそれとして、自分はこうだということを付け加えていただきたい。いろんな形で議論を広げていただきたいと思っております。

その議論が出ました第1ステージ、第2ステージが終わりましたら、一旦休憩を入れさせていただいて、その後、皆さんの出した意見を基に課題の整理、第2ラウンドに進めていきたいと思っております。

第2ラウンドにつきましては、後方の大きなテーブルのほうで、10人のメンバー、今日は9名ですが、全員で話し合っていきたいと思っております。第1ステージで出された意見の中に、どのような点が重要なのか、具体的な課題は何なのかを出して、同じく課題シートのほうに貼り出してくださいというふうになります。その後、意見を分類・グループ化などして、課題を整理させていただきます。

例えば、課題の整理として、これは予算の問題のグループに入りますとか、もしくは家庭の負担の増減などの分類に入るかなということで、皆さんから出された課題を幾つかに分類分けをしまして、ポイントを可能な限り整理させていただきたいと思っております。整理された課題を、黒板に副委員長に書き出させていただきますので、取りあえず見える形で、今こういうテーマが出ているというふうにまとめていただきたいと思っております。

タイムキーパーについては事務局のほうで行っていただきます。大体、1ステージ10分から15分ぐらいと考えておりますので、いろんな考えがありますが、各テーブルで意見を出し合ってください、付箋でまず貼り出してください。その後、全員でそのことについての課題を出していただくということで行っていただきたいと思っております。よろしいですか。

今の中で、説明不十分なところとか問合せ等ありませんか。

○委員（河野敏生） 付箋の色が違うのは何かあるんですか。

○委員長（河村康之） そうですね、まず色を分けておきましょうか。B班はまずピンクを使ってください。

○委員（岡部かおり） ステージの第1は黄色で、第2がピンク。

○委員長（河村康之） 変わるからね。

○委員（岡部かおり） 変わって、ここの深堀りですよ。

○委員（河野敏生） 了解です。

○委員長（河村康之） 初めに黄色の付箋のほうに意見を書いていただいて、次にテーブルを替わったら今度はピンクの付箋に書いていただいて。よろしいですか。

今の中で質問ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○委員長（河村康之） 始めていきたいと思いますので、皆さん意見を書き出していただいて。大体時間は10分見ておりますので、皆さんのほうでこのテーマに沿っての意見、課題、メリット・デメリットなどをご記入していただいて、貼ってください。では、どうぞお願いします。

（A班、B班に分かれて意見出し）

○委員長（河村康之） それでは、A班、B班、同じように意見をいただきましたので、ここで一旦休憩になります。14時40分まで一旦休憩しまして、次は向こうの大きいテーブルで行いますので、よろしくをお願いします。では、休憩です。お願いします。

（休憩 午後2時30分）

（再開 午後2時40分）

○委員長（河村康之） 続きまして、再開いたします。

次、第2ラウンドということで、9名全員で話し合いを行いたいと思います。

まず、全体、目の前に用紙がありますがけれども、お互いA班、B班で話し合っただけの答えですから、大体内容はほぼ同じだと思います。この中でいろんな意見が出まして、中学校の給食は負担がなくいいんじゃないかとか、もしくは多様性のことを考えたら中学校の今の選択制でもいいんじゃないかとか、もしくは小学校については、全員同じものが食べられて、みんなバランスよく食べられて、残食もないからいいんじゃないかとか、様々な意見ありました。

この中、テーブルのほうに出されておりますので、これを皆さんもう一度思い出していただいて、この中で皆さんの出された中で、何が課題、問題であるかと。この課題を何とかしていかなければいけないということをお手元、付箋がありますから、また記入をしていただきたいと。時間、15分ぐらいとりますので、もう1回これを見直していただいて、これは課題だと、小学校の給食について課題、中学校の給食について課題ということをお手元でまた付箋のほうで書いていただいて、こちらの前のテーブルのほうの黒板の小学校、中学校に課題を張りつけていってください。張りつけていただいた分を分類ごと、どういうジャンルになるかということをお手元で分けてまいりますので、まずは皆さん、付箋のほうに15分間で書いてください。

この課題を基に、今後どうしていくかということになりますから、課題がなければ問題がないと思われまますので、ぜひどんどん書かれてください。その中で課題の優先順位を今後決めていくという方向になると思います。

では、15分間ですので、よろしくお願いたします。

○委員（岡部かおり） 補足で。課題の整理を今から行いますので、付箋を私に下さい。そしたら私が貼っていきますので。

〔付箋に記入〕

○委員長（河村康之） 早いですけれども、皆さんから課題のほうが出そろいましたので、これからまとめていききたいと思います。

まず、課題のほう、全員給食制の小学校のほうです。

まず、先生の負担が小学校は多いと。先生の負担が多い。先生の負担の軽減。先生が忙しい。先生が忙しい。もう先生が忙しいというのが。

○委員（河野敏生） それに絡んだようなやつを僕も出したんです

○委員（大塚みどり） 表現が違う。

- 委員（岡部かおり） それをここに書いていっていいですか。
- 委員長（河村康之） 小学校の先生の負担、食育の負担。
- 委員（河野敏生） それです。
- 委員長（河村康之） 同じような先生の負担で、ある程度負担があつて当然だと思うけれども、小学校の先生の指導はすばらしい。
- 委員（河野敏生） 食育というのを文科省も求めていますので。
- 委員長（河村康之） 食育の指導をされてるのはいいことですよと。
- 委員（岡部かおり） 課題でしょう。[「課題でしょう。」「ああ。そうか。」の声あり]
- 委員長（河村康之） 次行きます。

冷食の比率が不明。小学校の給食、冷凍食品使ってるんじゃないのと。アレルギー性の小学校は中学校よりも高いのではないかと。食材の関係ということですよ。あとは、給食食材が冷めている。

- 委員（大塚みどり） それは私が書いた。主体性がない。先生の関わりが多過ぎて、何か子どもが自ら食べようという雰囲気が見えない。
- 委員長（河村康之） これ、食育ということですか。
- 委員（岡部かおり） どうかな。先生の負担にもなる。
- 委員（大塚みどり） 主体性。
- 委員（岡部かおり） 食育。
- 委員（大塚みどり） 食べるということに。
- 委員長（河村康之） 食育で。
- 委員（中村慎一郎） 食べさせられてるということですか。
- 委員（大塚みどり） 何か雰囲気に。そんな気がしませんか。
- 委員（中村慎一郎） 今これ、議論じゃないんですね。
- 委員長（河村康之） じゃないです。こういう意見が出ていますけれども、どのジャンルかなと。
- 委員（大塚みどり） 理由は聞いた。

- 委員（河野敏生） 昔は給食委員の子がやりよったけんね。
- 委員長（河村康之） あと、食材の産地が怪しい。よく分からないよというのがあります。

家庭環境の厳しい子に偏食の傾向が高い。同じメニューを食べる全員制の場合、友達に促されて、食べ慣れていない食材に挑戦できるんじゃないかと。

- 委員（河野敏生） すいません、それも褒めました。課題とは思ってませんでした。
- 委員長（河村康之） 財源がないんじゃないか。財源がない、これは何だった。
- 委員（大塚みどり） 無償化よ。
- 委員（井福大昌） 全員制にしたとき。中学校を。[「中学校のほうですね。」]
- 委員長（河村康之） 行事のとき、中学校みたいな特別メニューの提供を考えてみては。小学校の給食ですかね。
- 委員（中村慎一郎） 中学校はあつてと思う。
- 委員（大塚みどり） 行事してます。
- 委員長（河村康之） してますよね。クリスマスとか。

残食があつた場合、見た目がよくない。不衛生である。残食の問題ですね。食缶方式だと余ったときにぼんぼん入れられるので、それは衛生的にどうかなというご意見ですね。

あと、多様性の時代に選べないのはどうかなという意見もあります。小学校給食。全員同じものを食べる。

配膳の経験、文科省が言う食育にしてということになりますね。食育なのかな。

○委員（河野敏生） いや、それも褒めてるんです。文科省が言う食育の一つで、配膳するという経験がいいなと思って。

○委員長（河村康之） ざーっと小学校を見た限り、課題としては、多様性に合っていないんじゃないかというのが出ているのと、あとは先生の負担が大きいよと。アレルギーに対しての危険性が中学校よりも高いとか、これも食育かな、主体性がないと。食材が冷めているというのが課題なのかな。全員給食であれば食缶で提供するから、始めと終わりの子に限るとどうしても食が冷めてくることがある。産地がどうか分からないというふうなご意見ありました。先生の負担の部分が多いのかな、小学校については。これをまとめていかないといけない。

これ置いておいて、次、中学校行きます。

課題の整理ということで、欠食がある。欠食があるということは、弁当を持ってこれない方のことということですかね。

○委員（松崎百合子） そうですね。この前、調査報告が出てましたけれども。

○委員長（河村康之） そういふことがあるということが一つと、ランチ給食バランスがいい。栄養が取れ、バランスがいい。

○委員（中村慎一郎） バランスのいい栄養がじゃないですか。

○委員長（河村康之） バランスのいい栄養が取れない。マイナスですね。あと、栄養の偏りがある。栄養のバランスの問題がある。冷凍食品の比率がひょっとしたらいっぱいあるんじゃないかということもありますよね。食材のことですね。栄養のバランスのことです。

あと、学校給食を考えれば全員同じ給食でいいんじゃないかと。同じ給食にすべきだということなのかな。学校給食法を考えると。

あと、給食指導が見えなく、食品ロスがある。食品ロスが、要は弁当でそのまま返品するから残食が分からないよということですね。これが課題だと。同じようなことありますね。残食が多いとか、ランチの給食が見えない、残食が見えない、食育指導ができない、この辺は似たような問題ですかね。先生が残食を把握できない。残食が多い。残食のご飯について、ご飯のみボックスにして食缶で提供してみたらどうかということ。残食のことが出ております。

○委員（松崎百合子） 食育指導は別にしたほうがいいんじゃないですか。食育については。

○委員長（河村康之） 今のところ。食育の指導ができない。

○委員（松崎百合子） 食育は食べさせるというだけじゃなくて、こういう食材は誰が作って、こんなふうになって、こんな栄養があるとか、そういう食に対する知識とか。

○委員長（河村康之） これ僕が書いたもので、僕はそういう意図で書いた。残食が多いよということが見えないのがどうかなと。

あと、自校式全員制はある意味理想に近い。しかし、それを中学校に求めるのはお金がたくさんかかる。費用面ですね。あと、自校式は場所、予算等、課題が多く、課題でクリアするには困難。これもお金の面ですね。中学校の無償化の財源、選択制、喫食率向上、または全員制による校舎改築の財源はと。お金のことですね。自校式もしくは全員制にしたときに、中学校の改築費用が大分かかるよということが課題であると。あと、給付金のこともそうですね。支給方法とか大変というのがあります。

あと、アレルギー対応もあります。アレルギー対応が中学校の今のランチ給食は弱いと。アレルギーしてないからですね。アレルギー対応がされていない。アレルギー対応になっていない。個別によりお菓子を持ってくる子もいるよということです。アレルギーとまた同じような感じですけども、食材を給食以外持ち込む子どもがいるので、それをほかの子が食べたらアレルギー問題にもつながる可能性があるよと。これは学校の問題ですね。

あと、配膳の指導の体験ができない。配膳指導、配膳ができない。そういう経験ができないよということですね。

○委員（松崎百合子） 配膳指導はすごく大事な生きる力になることだから、小中で経験したら、生涯、自分で作ったり、配膳したりできる力になると思います。

○委員長（河村康之） あと、中学校給食、調理から喫食までの時間が長い。調理からというと、給食センターさんで作ってから、持ってきて食べ終わるまでの時間ということかな。

○委員（松崎百合子） そうですね、調理して、家庭弁当も朝作って、食べるのは昼で、夏に悪くなりやすいというものもあるし、今のランチ給食も作られて配送しているから、食べるまでの時間はすごく長いんですよ。

○委員長（河村康之） そういう衛生面が心配だということですかね。衛生面、中学校の手洗い、台ふきとか。これは衛生面ですね。

中学校の設備など対応、衛生面が心配。明確ではなかったのということです。家で弁当は夏とか危ないもんねということ、衛生面ですね。だから逆に、選択制よりも完全給食であれば衛生面は統一されるからいいんじゃないかということでしょう。

多様性という点で、現在、パン、ランチ弁当の選択制は優れているが、一番きつい思いをしている子に届く支援でないのではないかと。これはどういうことですか。

○委員（河野敏生） 多様性を先に持ってくるんじゃないで、まず一番きつい思いをしている子に届く取組をして、それができるようになって多様性を求めていくべきだというふうに思います。なので、例えば、今、欠食の子どもがいたりする中で多様性を語るのは僕は危険じゃないかなと思っています。小学校ではそういうことはないですよ。全員。ご飯できてないとか、食べてない子はいないので。

○委員長（河村康之） 多様性でいろいろ選べるのはいいんじゃないかと、そういう問題の前ですよ。

○委員（河野敏生） それはとてもすばらしいことなんですけれども。僕は36年前に担任で隣のクラスの男の子が弁当を持ってこれなくて、ずっと3か月間、お昼にこっそり抜け出しよったというのが僕の経験の中で強烈なので、そういう子がいないほうがいいなど。

○委員長（河村康之） 全員漏れなく食べられるほうがいいんじゃないのということですよ。

○委員（河野敏生） はい。

○委員長（河村康之） 家庭弁当やパンは小学校のような多様化メニューに。

○委員（松崎百合子） 多様なメニューですね。多様性という面では、小学校の給食がすごく多様なんです。メニュー表をずっと見てもらえばいいんですけども、ペルーの料理、いろんな世界の料理や郷土の料理、富山県の料理、沖縄の料理とか、毎日メニューが行事食もその都度されてるし、本当に多様なメニューを小学校の場合は経験できるんですよ。それが家庭弁当だったら、どうしても同じようなものを入れたり、冷凍食品を入れたりする場合がありますね。パンは特に栄養に偏りがある。

○委員長（河村康之） ここで言う多様というのは、小学校給食は献立が多様だから、そういう多様は中学校は欠けてるんじゃないのということですね。

○委員（松崎百合子） そうなんです。

○委員長（河村康之） 了解しました。

財源がないというのはさっきありましたね。

あとはスープが取れないと。今のランチ給食、温かいスープが取れないというのがあります。

パン食はファストフード形式が気になる。

○委員（大塚みどり） 汁がない。

○委員長（河村康之） 汁がないですね。

あと、給食の時間が短い。昼休みが、何だろう。

○委員（中村慎一郎） 給食の時間が短いので、昼休みと重なる子も中学校の場合出てきて、その境界線が曖昧になっているという。

○委員長（河村康之） 給食の時間が短いので、もう少し長いほうがいいんじゃないかという。

○委員（中村慎一郎） そういう課題です。

○委員（大塚みどり） 時間差がある。

○委員長（河村康之） 以上かな。これ言いましたっけ。中学校の台ふき、手洗い、言いましたね。家で弁当がないことがある。給食の時間が長い。

○委員（岡部かおり） これは課題に上げなくていいのですか。

○委員長（河村康之） 弁当やパンは炭水化物、塩分取り過ぎ心配ということ。栄養面のほうでしょうね。という意見が出ました。これが課題だということで、ジャンル分けをしたいんですけども。

○委員（河野敏生） 自分のさっき褒めたやつも、持っていけば中学校の課題にもなるんです。

○委員（岡部かおり） 中学校でいいんですよ。

○委員長（河村康之） 中学校が食育ができない。

○委員（松崎百合子） そうですね。小学校のよさとして、統一的な食育ができるというのを市も答えてあるんですよ。

○委員長（河村康之） できないよということ。

○委員（松崎百合子） 中学校の場合は統一的な食育はできない。中学校の場合です。中学校の場合の課題。

○委員長（河村康之） ざっと皆さんの課題というふうに出していただきましたが、小学校についての課題、先生の負担が大きいので、これは課題で、今後何とかしていかなければいけないんじゃないかなということ。あと、アレルギーもありました。残食があった場合、見た目がよくない。特にどうでしょうか。皆さんから見て、小学校の負担というのは。

○委員（河野敏生） 僕は先生の負担のところを小学校への褒め言葉で下のほうに書いたんですが、食育というのを文科省が求める時代になっていて、それに対して、小学校の先生はとてもきめ細やかに指導されていたんですね。そういう意味で、あれを負担というのか、それとも指導というのか。あれは僕は当たり前の、僕の教員時代の感覚では、小学校の先生のは当たり前なんですよ。

○委員長（河村康之） これを負担ではなくて、食育の中の一環とすればいいじゃないの。

○委員（河野敏生） 指導なんじゃないですかね。

○委員長（河村康之） というふうを考える。

○委員（中村慎一郎） そこは食育というよりは、どちらかというと、配膳のときの関与が大きかったんです。

○委員（大塚みどり） 関わり過ぎなんです。5年生なのに。低学年ならいいんですよ、1、2年の頃は。

○委員（岡部かおり） そうですね。

○委員（大塚みどり） だけど、自分で主体的に、これぐらい今日食べれそうとか。

○委員長（河村康之） 見に行ってたからね。

○委員（大塚みどり） 最後まで全部先生が。食缶を全部。

○委員（中村慎一郎） 多分僕らの頃って、給食委員が食べたい人とかなんとかというのをやってたんですけども、先生がやりよったけん。

○委員（大塚みどり） 聞いたら、コロナ明けに文科省が衛生面を物すごく強調して、それで食缶を先生がするようになったと。校長に理由を聞いたんですよ。何でこうなったんですかと。

- 委員（松崎百合子） もう少し子どもたちが配膳に関わってね。
- 委員（岡部かおり） 主體的に子どもたちがですね。あと、もう少し先生が見守るような感じで。
- 委員（河野敏生） 中学校の先生があまりにも仕事してなさ過ぎて。
- 委員（松崎百合子） それ、個人によって差があるよね。
- 委員（岡部かおり） 先生によってね。クラスによって違ったですもんね。
- 委員（大塚みどり） 食缶はゼロにしようって言った。先生が。
- 委員長（河村康之） まとめます。小学校については、先生の負担ではなくて、先生の業務全般について見直しなり、配膳も含めて、職員も当然そこに入っていきますので、それを課題といいましょうか、まとめてあげるなり、振り分けするなりしないといけないということなのかな。
- あとは何かありますか。小学校についての課題。
- 委員（松崎百合子） 課題じゃないんですけれども、残食の問題がありましたよね。
- 委員長（河村康之） どっち。小学校、中学校。
- 委員（松崎百合子） 小学校の意見に、残食について残食の見た目が悪いとあったのですが。
- 委員（大塚みどり） 私は逆に、よく工夫されてると思ったんですよね。結局、食事だけをビニール袋に入れるようにですね。そして、それを廃棄物、リサイクル、有機化させて、植物を育てる栄養にするというのが小学校でされてる方針なので、食材だけをきちんと分別されて、そして堆肥化するという、そういうサイクルをつくられて工夫されてるなと思ったんです。でも、残念ながら、残食は少ないということで、堆肥化がほとんどない、ほとんど残食はないと。インタビューしましたら言われてましたもんね。小学校の給食では。
- 委員長（河村康之） これ、残食というのはあくまでも当然のことなんですね。ごみはごみとして、残飯は残飯として振り分けていることは別に当然であって、不衛生とかそういう問題ではないかもしれないよということ。
- 委員（松崎百合子） そうですね、分別されてると思いました。
- 委員長（河村康之） 学校行事のとき中学校みたいな特別メニュー。
- 委員（岡部かおり） それは私なんですけれども、小学校のケーキといっても、こんなちっちゃい四角のケーキなのに対して、中学校のランチ給食はワンカット、少量なので、同じような感じの提供の方法、提供の仕方、例えばひな祭りだったら、袋だけとかでしょう。今どうなってるのかなと思う。
- 委員（河野敏生） 那珂川市や筑紫野市の中学校の給食は、ケーキが出ます。
- 委員（岡部かおり） ワンカット。
- 委員（河野敏生） はい。来ます。
- 委員（岡部かおり） 今の現状が私もよく分からないけれども、中学生はすごく喜ぶから。
- 委員（中村慎一郎） 小学校はそうでもない。
- 委員（岡部かおり） 小学校はこんなちっちゃい。多分。
- 委員長（河村康之） 岡部さんの子どもの頃ですか。
- 委員（岡部かおり） いや、子どもたちの。
- 委員長（河村康之） 自分の子どものね。
- 委員（岡部かおり） 給食試食会とか行ったときに。
- 委員（中村慎一郎） 試食会は小さいですよ。〔委員長次の項目へ。〕の声あり〕
- 委員長（河村康之） 小学校については、先生の業務の考え方ということと、今のちがうかなと思います。アレルギーの危険性。これも基本的には学校でアレルギー等やってくれてるので、中学生よりは高い、危険が高いのかな。よく守ってるというのは、いいことの高いのかな。危険という高い

なのか。

小学校は特に大きなのは、先生の負担とか仕事の業務量の考え方かなと。

あと、中学校がいっぱいあるので幾つかにまとめると、食育の方法と、食材の残食があるかな。あと費用面。今のランチからほかの給食、食缶方式とかに変えたときのいろんな設備等にかかる費用面、財源の問題、これが大きいかなと。あと、アレルギー対応。これはどうですか。アレルギー対応が小学校はあるけれども、中学校は入ってるから、食べたくない子は食べなくていいよということになるからですね、そういうのが特に。小学校ほどよくされていないという。アレルギー対応。学校給食法は全ての子どもたちにということを考えると、アレルギーでバランスが違うのはどうかなというのも考える。アレルギー対応についてもどうか。あと、衛生面。弁当を持ってくる人は夏とか危ないもんねと。ランチ給食を調理から持ってくるまでの時間が長いということ。この辺、皆さんどう思われますか。この辺の衛生面とかというのを。中学校のランチ給食について。

○委員（中村慎一郎） 特にない。

○委員（河野敏生） 考えられてはいるんじゃないですか。

○委員長（河村康之） 河村商店が作れば心配だと思うんですけども、しっかりした給食会社が入っているから、それなりの衛生面とか考えて、時間も考えて、恐らく工場から配達まで何分以内とか、そういうくくりがあると思うので、今後聞きに行つて、話を聞けばいいと思います。

○委員（大塚みどり） 弁当はどうなってる。

○委員長（河村康之） そういうのがあるから。

○委員（河野敏生） 家から持ってくる弁当。

○委員長（河村康之） 家から持ってくる、これですね。

○委員（大塚みどり） この暑さで。尋常じゃない。

○委員（岡部かおり） 弁当を持ってくる子はここに保冷にするとか。

○委員（河野敏生） ないない、そんなの。

○委員（岡部かおり） 幼稚園はそうなんよ。弁当の日はここに預けるとか、クーラーの部屋に全部持っていくとか、そうやってしてるから、そういうふうに弁当にする子には配慮が要るかもしれんかな。

○委員長（河村康之） 結論を出すと、あくまでもこういう問題があるので、確かに弁当の保管状態の。

○委員（岡部かおり） 衛生面。

○委員（大塚みどり） 気になる。

○委員（岡部かおり） 弁当の子とかですね。

○委員（河村康之） 置いててなくなったとか。

○委員（岡部かおり） それはある。

○委員（中村慎一郎） 中学校はエアコン、教室がいつから動いているかということですね。

○委員（河野敏生） 教室にはついてる。

○委員長（河村康之） ついてますけれども、気温か何かによって。

○委員（大塚みどり） 湿度と気温。

○委員長（河村康之） だから、弁当でやるのであれば、そういうことの確保が必要かもねとか、衛生面を考えた場合、みんな一緒に給食、自校式がいいよねとかということで、衛生面については課題、全体的にあるのかなと。

あと、皆さんのほうから気になって、何か課題とかないですか。自校式にしたときの費用面とか、栄養のバランス、これどうだろう。

- 委員（中村慎一郎） どうなんですか。給食、バランスを考えてるんですよね。ランチ給食も。
- 委員（河野敏生） パンを食べる子どもの栄養は心配です。
- 委員長（河村康之） それもあるでしょうね。
- 委員（松崎百合子） パンとお弁当も家庭によって格差がありますから。
- 委員長（河村康之） おにぎりだけの子もいるかもしれないから。
- 委員（中村慎一郎） あと、さっき追加させてもらいましたけれども、お菓子を持ち込んでいる子もいましたけれども、部活というか、野球とか柔道とか、体重を太らせたい子たちの補食とかもあるわけじゃないですか。そういったところのルール面も課題が。
- 委員長（河村康之） 学校での食に対する全般的なルールですね。
- 委員（大塚みどり） 持参することでしょうかね。
- 委員長（河村康之） ルールが課題ですよということ。
- 委員（河野敏生） 僕は文科省が言う食育という意味で、さっき小学校を褒めた2個は、食育という意味では中学校の課題に行くと思うんです。
- 委員長（河村康之） 食育がされていないということ。
- 委員（河野敏生） 足りないというか。例えば配膳の体験というのは、文科省が言う食育の一つの例で表されてるんですね。食べ慣れないものを同じグループで同じメニューを食べる中で、「河野君、ニンジン食べれんと、だっさー。」とか言われながら、女の子に言われながらニンジン食べよる男とかおったので。
- 委員（河村康之） 逆にそれ、いじめとかにつながらんやろうか。
- 委員（河野敏生） それはクラスの雰囲気ですね。
- 委員（中村真一） 今のはいじめにつながると思います。
- 委員（河野敏生） いやいや、僕のクラスはそんなことありませんでした。
- 委員（河村康之） 取り方だと思う。食べたくないもの食べろと言われたという子もいれば。ただ、食育の観点では考えないといけないかなと思う。
- 委員（中村真一） 食べたくないものを食べないかんというのは、不登校とかにもつながってくるんじゃないですか。それを言われると。
- 委員長（河村康之） 食育という観点で、そういうことも今後、課題として、その中に入れていきましょう。課題として出して、これが課題じゃなくて、いろんなこと課題が出てくると思います。食育でもアレルギーでも。これを今出したいから。
- あと、どうですか、皆さんのほうで。これで出したこと以外で。
- 委員（松崎百合子） 書かれてないんですけれども、欠食があり得るというのは大きな課題だと思うんですね。
- 委員（井福大昌） 書かれてますよ。
- 委員（松崎百合子） 書かれてないから。欠食の問題ですね。この前の報告でも、全校で37人、平均して1日7名の給食忘れがあるということです。
- 委員（岡部かおり） これ結局、注文忘れということですよ。
- 委員（松崎百合子） 注文忘れか、持ってこれなかったということか分からないですよ。理由はね。新たに追加された資料では、朝の会で把握してたのは書かれてる、最初の数字ですけれども、昼食忘れの申出がなく、昼食時間中に昼食を確認した人数がプラスされて37名、26名から37名になったんです。
- 委員長（河村康之） 取りあえず皆さん意見出ましたので、全体的なまとめに移らせていただこうと思います。

小学校と中学校、こういうご意見、ざっくりジャンル別といいましようか、まとめさせていただきます。食育、栄養バランス、費用面、アレルギー対応、衛生面、補食、欠食。中学校ですね。小学校については先生の負担、先生の働き方といいましようか、業務ですかね。あと、配膳の方法など。業務についてということになります。

こういうことがあります、これは今後まとめていくので、重点的な、例えば、今後、6月で中間報告をするに当たって、まず目的というのは、今、選択制、全員制、小学校、中学校分かれていますけれども、じゃあ小学校はどうなの、中学校はどうなのという結論を出したいと思っています。その中で、これを調べていくに当たって、最終的にはまとめていくんですけども。まず、食育についてですけども。

○委員（松崎百合子） 食育と栄養バランスは別個に立ててもらいたいんですけども。

○委員長（河村康之） 食育は全体広いからですね。

○委員（松崎百合子） 栄養バランスがとられにくいというのは、大きな問題、成長期に必要な栄養を確保できない。

○委員長（河村康之） 食育は広いから、食育は食育として、栄養のバランス、これは給食に関してですね。選択制については栄養のバランスがどうなんだろうという課題があると。

あと、費用面、財源。これはどうですか。今のところ、今の選択制であれば費用面はそんなに変わらないかもしれない。ただ、これも選択制が全員になると、エレベーターとかつけないといけなくなるかもしれないし、食缶方式の全員制になると、さらにほかの予算がかかるかもしれない。給食センターをどこに造るのかも大きな予算がかかります。この辺は課題として必要なと思いますので、残します。

アレルギー対応とかはどうですか。中学校のアレルギー対応。皆さんのご意見を。

○委員（河野敏生） 今は選択制なのでアレルギー対応は問題視する必要はないし、全員制になった場合は、当然小学校みたいにされるだろうから、今の課題として挙げるのはどうなんですか。

○委員長（河村康之） ただ逆に、今、アレルギー対応してないんじゃないのと。

○委員（河野敏生） お弁当を持ってくるから。

○委員長（河村康之） そうですね。だから、家庭でアレルギー対応しているんじゃないかということです。逆に、アレルギー対応がないということの課題はどうなんでしょう。もっとすべきだという。

○委員（河野敏生） ランチ給食でアレルギー対応をしてもらったらよかったということ。

○委員（大塚みどり） 代替とか。

○委員（河野敏生） 全員制のときは必ずあります。必ずというか、できる範囲でですけども。

○委員長（河村康之） あと、衛生面。先ほど言いました弁当の保管状態、弁当を持ってくるまでの過程のランチ給食の衛生面。

○委員（岡部かおり） 手洗いとか。机とか拭いて。

○委員（大塚みどり） 小学校に比べたら、不衛生。

○委員（岡部かおり） 小学校に比べたら、中学校のときのランチ給食の時間のときに、体育の後にすぐ食べよったけん。台を拭くなり、ランチョンマットを用意するなり。

○委員（松崎百合子） そういふことの食育指導ができないということ。

○委員長（河村康之） 食育の中で指導の方法もありますね。栄養バランス、食育。食育の指導に書いて。食育の中でですね。

○委員（大塚みどり） 補食のルールづくりは、あそこの学校だけがそうなのか。もしかしたらね。

○委員（岡部かおり） そうですね。

○委員長（河村康之） あそこを見る限りでは。全体だというふうに把握していいんじゃないですか。

- 委員（大塚みどり） あまり私の校区でそんな。
- 委員（中村慎一郎） お菓子だけじゃなくて、スポーツ少年の指導者の人から、補食で、給食だけじゃなくて、プラス何か持ってきたいという声があります。
- 委員（松崎百合子） それは全員制給食と関係がありますか。
- 委員（大塚みどり） 給食じゃないときでしょう。給食のときに食べる。
- 委員（岡部かおり） いや、部活が始まる前に。
- 委員（大塚みどり） それはまた違う。
- 委員（井福大昌） それはまず論点が違う。
- 委員（大塚みどり） 違うね。給食だから。
- 委員（松崎正和） 1校だけ見て、ああこうだと結論づけるのは駄目よ。[「でも、明らかに。」の声あり]
- 委員（松崎正和） あくまで参考にして、ここの学校はこうだったちゅうことで、みんなそれを認識しておかないと。
- 委員長（河村康之） あくまでもこれは課題を出すだけですから、1校だけ見て、その課題かもしれないですけども、ほかは全然できてるかもしれませんけれども、まず1校を見ただけですけども、課題としては出していないといけませんから、だから、こうあるべきだじゃなくて、こういう課題がありましたよということでまとめますので。結論までは出しません。
- 今日は課題の整理ですから、こういうことが課題で出ておりますので。
- 委員（松崎正和） 欠食のところに（注文）、注文忘れはまだ救われる。次の日作ればいから。そうじゃなくて、欠食の子がいるのね。だから、欠食イコール、イコールかどうか知らんけれども、注文忘れということじゃなくて。
- 委員長（河村康之） 朝の会で見つけられなかったということで、そこが問題。
- 委員（岡部かおり） 私の書き方がおかしかった。何で欠食となったのか。
- 委員（松崎正和） 注文忘れだけじゃないよと。
- 委員（岡部かおり） そうそう。
- 委員長（河村康之） それも含めて課題の中で協議をしていくということね。これだけじゃない。どんどん枝葉が多分、これから課題として出たらどんどん出てくると思う。それを次、5月以降にやりたいと思います。
- まずは何を話すかということで、食育だったり、欠食だったり、補食のルールだったり、アレルギーということを出させてもらってますから。今後これを枝付で出し合って、課題を掘り下げていきたいと思ってます。
- 委員（中村真一） 課題を解決するためにどうするかということになってくるんでしょう、次は。
- 委員長（河村康之） まず、課題を出し合って、どうすればいいかという。さっきも言ったように、こういう課題がありますけれども、こうなれば全員給食いいんじゃないの、こうなれば選択制もいいんじゃないのということまでどんどん出し合っていきたいと思います。まず課題がこれだけあるということだけ、今日、出したいと思っています。いろんなジャンルはあると思いますが、その中で、いろんな枝葉の課題がまた次の話の中で出てくると思いますので、こういう形になりました。
- これも煮詰めて、また付け加えるかもしれませんが、次、5月18日に話し合うときに、これをまとめたやつをペーパーでお配りさせていただこうと思ってます。よろしいですかね。
- 皆さんの中で今の話の中で何かありますか。
- 委員（大塚みどり） 書くのはどうやって書けば。小学校も見て、中学校を見て、小学校の配膳のやり方が高学年なのに全部先生主導でやってるから、手を挙げたりしてるけれども。その上、中学校

で見えないものが食品ロス。今、文科省が一番大きく掲げたのが、公平性と衛生面とアレルギー対応と、それは個別です。食品ロス、これを学校教育の中でいかなきゃいけないということで、これが見えなかったなと感じています。一つ挙げてもらえれば。関連が見えない。

○委員長（河村康之） こうやって皆さんからいろんな課題とか出していただきましたけれども、基本は学校給食法、平成17年に今のランチ給食ができて、平成20年に学校給食法が変わりました。変わった法律、学校給食法じゃないやり方で今の中学校が進んでますから、学校給食法を基に、じゃあどういうふうにしていけばいいのかということが今後の話になってくると思います。お配りしている中でも学校給食法が、前のやつかな、出してあったと思います。

○委員（松崎百合子） 一番上に7項目が出ています。

○委員長（河村康之） これが給食のバイブルだと私は思っています。これを基にやらないと、遅れますから。そういうことを考えながらですから、この話は、さっき、じっくりお話ししませんでしたけれども、今後そういうことも考えて、せんだって小学校、中学校、全員制を考えていくというふうに思っています。

あと皆さん、何かありませんか。意見とか言いそびれたこととかないですかね。

○委員（井福大昌） もう時間です。

○委員長（河村康之） なければ、次、5月18日の、時間は何時って言った。

○委員（中村真一） 1時半。

○委員長（河村康之） 1時半ですね。またこちらのほうで、今回のをまとめて、それをみんなで話し合いというふうに思っております。よろしいですか。

○委員（大塚みどり） 13時半。

○委員（岡部かおり） うん、13時半。18日。

○委員長（河村康之） 長々となりましたけれども、今日の特別委員会を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

（閉会 午後3時33分）